

多剤耐性緑膿菌とは？

多剤耐性緑膿菌とは？

小城市民病院 感染対策委員会

今回は今年9月に話題となった薬剤耐性菌のひとつである「多剤耐性緑膿菌」についてお話したいと思います。皆さんは覚えていらっしゃるでしょうか。東京都内の病院での多剤耐性菌による院内感染が新聞やニュース等で報道され、あまり聞き慣れない名前に不安を感じた方も多いと思います。

薬剤耐性菌とは？

薬剤耐性菌とは一言で言うと、「薬が効きにくい菌」です。この薬剤耐性菌には様々な種類の細菌がいます。

代表的なものを挙げるとメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)、多剤耐性緑膿菌(MDRP)などがあります。

緑膿菌とは

緑膿菌は、土壌・水中・植物・動物(ヒトを含む)などあらゆる

ところに存在する菌で、ヒト・動物はもちろん、植物にも病気を起こすことがあります。しかし、その病原性は低く、通常は緑膿菌が体内に入っても病気になることはほとんどありません。では、どのようなときに病気を引き起こすのでしょうか？

緑膿菌が病気を引き起こすには、体の抵抗力が低下すること、周囲に緑膿菌が生存しやすい環境があり、接触の機会が多いことなどが同時に必要となります。

通常の健康な方であれば、体内に菌が入ってきても体の抵抗力によって自然に取り除かれます。しかし、重度のやけど・外科手術・がん治療・移植手術などによって、体の抵抗力が弱まった人の体に菌が入ると簡単に感染し、様々な病気を引き起こしてしまうのです。

多剤耐性緑膿菌とは

感染力・病原性などは通常の緑膿菌と大きな差はありませんが、抗菌薬(抗生物質)への抵抗性が

大きく異なります。

緑膿菌は、医療関連感染を引き起こす原因菌のひとつとして、医療現場で警戒されています。

緑膿菌は従来から抵抗性が強く、有効な薬が限られており、その薬剤が緑膿菌に対する特效薬として用いられてきました。

しかし、近年この特效薬にすら耐性を持つ緑膿菌が現れ、これを「多剤耐性(たくさんの薬剤が効かなくなる)緑膿菌」と呼ぶようになりました。

対策や注意点！

普通の「緑膿菌」は環境や人・動物などあらゆるところに存在していますが、「多剤耐性緑膿菌」は抗菌薬(抗生物質)を使用している病院などに多くみられます。このため、対策としては主に病院内の感染対策と抗菌薬の正しい使用があります。

一方で、日常生活においては、この多剤耐性緑膿菌との接触がないために感染の危険はほとんどありません。仮に病院を受診された際、病院内ではしっかりとした対策を行っていますので、手洗い・うがいなどの通常の感染対策をし

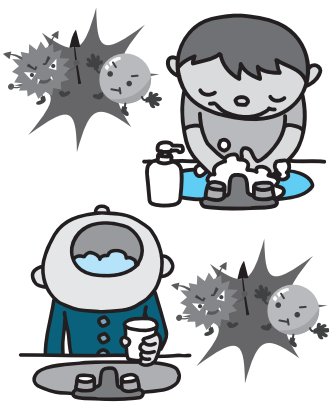
ていれば恐れる必要はありません。

各医療機関の感染対策委員会

病院には病気で抵抗力が低下している方が多く入院しています。そこで、入院施設のある全ての医療機関では、こうした患者様を細菌感染症などの菌から守るために、感染対策委員会の設置が義務付けられ、主に院内で感染が起きないように活動を行っています。

今回の多剤耐性緑膿菌だけでなく、入院患者様への感染を防ぎ、患者様に安心して治療に専念してもらえよう環境づくりを心掛けています。

最後に、感染はしっかりとした知識と対策で予防できます。12月に入り、一段と寒くなりましたが、手洗い・うがいを心掛け、新年を健やかにお迎えください。



時間外受診をされる方へ

【問合せ】小城市民病院

急病等での時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。

☎73-2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>